

シカ捕獲プロフィール

(東北局) 岩手南部森林管理署遠野支署

1. 署の基本情報

① 署の基礎的情報

管内面積	36,364.25ha		
シカ生息密度	10頭/km ² 以上30頭/km ² 未満		
管内市町村数	2		
	R3	R4	R5
更新面積	94.38ha	123.07ha	110.86ha
人工造林面積	85.84ha	101.17ha	101.18ha
シカによる森林被害面積	51.90ha	0.70ha	2.41ha
うち、人工林被害面積	50.76ha	0.70ha	2.41ha

② 署のシカ捕獲等対応体制

担当職員	森林技術指導官		
	R3	R4	R5
全職員数	19人	18人	18人
わな講習受講者数			
狩猟免許所持職員数		1人	1人

③ 捕獲実行形態

		R3	R4	R5
職員実行		-	-	-
委託事業		○	○	○
わな貸出	協定	○	○	○
	協議会			
その他	協定	○	○	○
	鍵貸与			
	除雪等 その他	○	○	○
	協議会	○	○	○

④ 協定・協議会数

		R3	R4	R5
わな貸出	協定	2	2	2
	協議会			
その他	鍵貸与			
	除雪等	1	1	1
	その他	2	2	2
	協議会	3	3	3

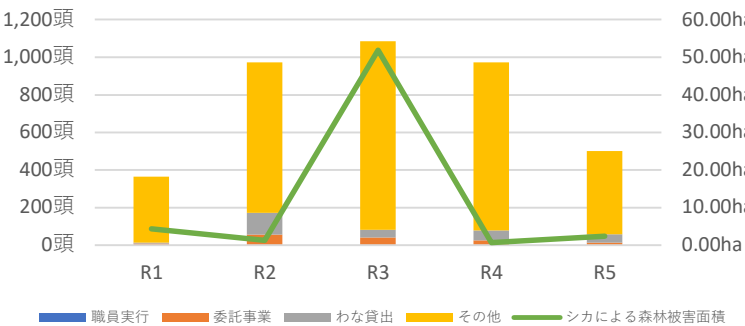
⑤ 捕獲の方法、実施時期

・ 捕獲の方法		R3	R4	R5
改良型わな等	小林式			○
	こじゃんと		○	○
	その他			
くくりわな		○	○	○
囲いわな		○	○	○
銃(モバイルカリング等)				
・ 捕獲実施時期				
職員実行	-			
委託事業	1月～10月			
協定	通年			

⑥ 捕獲以外の被害対策

シカ防護柵実施有無	有
シカ忌避剤使用有無	有

2. 捕獲頭数とシカによる森林被害面積の推移



		R1	R2	R3	R4	R5
捕獲頭数	職員実行					
	委託事業	9頭	55頭	41頭	26頭	13頭
	わな貸出	5頭	116頭	41頭	52頭	44頭
	その他	350頭	802頭	1,002頭	895頭	443頭
	計	364頭	973頭	1,084頭	973頭	500頭
シカによる森林被害面積		4.32ha	1.29ha	51.90ha	0.70ha	2.41ha

★森林被害対策のワンポイントアピール

- ① 委託事業による捕獲
越冬地において、センサーカメラによるシカの生息状況と行動範囲を確認し、令和5年度から小林式誘引捕獲法により、捕獲に取り組んでいます。
(詳しくは、4委託事業を参照)
- ② 林道除雪による捕獲支援
県が行う指定管理鳥獣捕獲等事業のため、地元猟友会と誘引・林道除雪路線を調整し実施しています。実施箇所は、遠野猟友会の意見、越冬地周辺の路線を選定し、林道除雪を継続的に行っていきます。

※ シカによる森林被害面積は、森林被害年報における実損面積です。

3. 署長が語る

【早池峰のシカ】

遠野支署管内にある早池峰山は、高山植物の宝庫として知られ、ハヤチネウスユキソウ等の固有種が生育しており、一帯は早池峰山国定公園に指定されているとともに、早池峰山周辺森林生態系保護地域に設定しています。

しかし、早池峰山周辺地域でニホンジカの生息頭数が増加しており、森林や高山植物への影響の拡大が懸念されています。

このため、シカの生息状況調査や被害状況調査を平成23年から継続して実施しており、令和2(R2)年度にはそれらを取りまとめた報告書が完成しました。また、当支署では、職員が「早池峰山周辺地域におけるニホンジカ対策」について森林・林業技術交流発表会で発表しており、早池峰のシカについて知見が蓄積されつつあります。

【シカ対策】

当支署のシカ対策としては、希少種を食害から守る対症療法(防護対策)としての植生保護柵の設置のほか、抜本的対策(捕獲)として捕獲圧を高めるための事業を行っています。

具体的には、委託による誘引捕獲事業、県が実施する指定管理鳥獣捕獲等事業(環境省補助事業)に対応した国有林林道の除雪による捕獲支援、市とのニホンジカ等被害対策協定に基づくわなの貸与というように、国、県、市の様々な段階で棲み分け(連携)しながら捕獲を実施しています。

令和6年度に、捕獲した個体を処理するため、国有林野内に大型排水管を利用した残渣処理設備設置敷を提供しています。

【林道除雪による捕獲支援】

捕獲頭数が多いのが国有林林道の除雪による捕獲支援で、R2から除雪時間の増加(=除雪距離の増加)により捕獲頭数も大きく増やしております。

国による捕獲頭数に比べ除雪支援による頭数が桁違いに多いため、これを継続して実施していくとともに、国による捕獲をするためだけに入林規制をかけることのないように注意が必要です。例えば森林整備事業のために入林を制限する区域で国による捕獲をするなど、やはりここでも棲み分けが重要となります。

状況は刻々と変わることから、早池峰山周辺地域ニホンジカ生息状況等調査検討委員会等の先生方にも意見を伺いながら、事業の実施場所や時期を検討していく考えです。

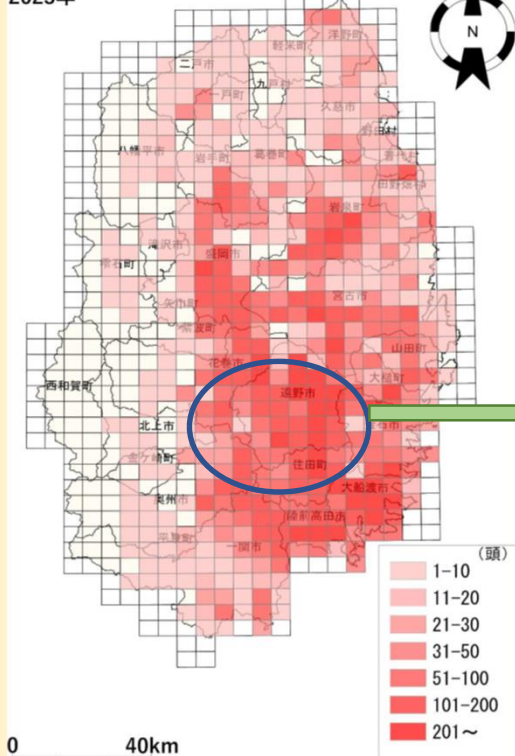
【ニホンジカ捕獲応援隊(国有林の見回り隊)】

遠野市では、シカの被害を受けている農業者などによる「ニホンジカ捕獲応援隊」を組織しています。隊員がわなの見回りや連絡などの補助的業務を行い、狩猟免許所有者は捕獲に専念するという棲み分けで、捕獲頭数を増やし実績を上げています。

令和4年度から、遠野市、猟友会と協議を行い、支署職員、請負事業体が遠野市主催の安全講習を受講することにより、見回り隊として活動を始めました。

支署長: 加藤 重義(令和5年7月1日～現職)

指定管理・有害・狩猟・広域捕獲数
2023年



※ 地域の中でも、遠野支署管内の捕獲頭数が多いことが分かります。



遠野支署管内図

4. 委託事業

① 基本情報・トピック

応札者数 2 (1事業あたりの平均)

★目標頭数の決め方

・生息状況等調査結果や目撃情報、過去の実績等により目標頭数を決定しています。

② 特記仕様書での工夫

・センサーカメラを使用したカメラトラップにより、ニホンジカの生息状況を確認しています。

③ 委託実行の流れ

実施期間・時期の決定

・早池峰山周辺の越冬地において、冬期間の捕獲を実施しています。

ボトルネック※3

└ 早池峰山周辺の県道が通行止め

改善策※4

└ 越冬地で、効率的な捕獲の実施

実施場所の決定

・センサーカメラの撮影状況や目撃情報及び生息状況等調査結果による移動経路等を参考に効率的な捕獲が可能な場所を選定しています。

ボトルネック

└ 農林産物の被害状況の情報が少ない

改善策

└ 林業従事者や猟友会から情報収集

わなの設置

・ツキノワグマ錯誤捕獲防止対策わなを使用しています。

ボトルネック

└ 捕獲効率が低い

改善策

└ ツキノワグマの錯誤捕獲防止による実施者の安全確保

見回り

・事業計画書により捕獲・従事作業者を提出させ、わなの設置後は毎日見回りを行っています。

ボトルネック

└ わな数を増やすほど人工の確保が困難

改善策

└ 道路から目視できる箇所にわなを設置し見回り労力を軽減

止めさし

・電気止刺器を使用しています。

ボトルネック

└ 安全の確保

改善策

└ 熟練者の配置

処理・埋設

・国定公園など制限のある場合は焼却施設で焼却処理しています。
・令和6年度から大型排水管による残渣処理設備数の提供をしています。

ボトルネック

└ 捕獲個体の埋設(処分)による問題。クマによる持ち去り

改善策

└ 残渣処理設備を利用することによる埋設、クマによる持ち去りの解消

前年度の実績(森林被害面積抑制、捕獲頭数増加)をさらに伸ばすために予定していること

・センサーカメラによる生息状況と行動範囲の確認を行い、捕獲捕獲頭数の増加に取り組むとともに、わなの設置数を増やすことを検討しています。

※3 全体に影響する問題要因で最も問題視される要因のことです。本票では各取組業務を妨げる要因として取り扱います。

※4 ボトルネックを解消するための方法です。

5. わな貸出(協定・協議会)

① 基本情報

管内市町村数	2
協定締結数	2
協定相手方	

- ①遠野市、公益社団法人岩手県猟友会遠野猟友会
②花巻市有害鳥獣被害防止対策協議会(会長 花巻市長)

協議会参画数	
協議会相手方	

② 協定・協議会裏話

協定締結、協議会発足等にいたるキッカケ「遠野地方有害鳥獣駆除協議会」や「遠野市ニホンジカ被害対策連絡会」等に参画し、地元市町村及び猟友会へわな貸出の要望があるか聴取し、取組内容を説明しました。

協定締結まで、協議会の運営で苦労した点
猟友会の参画を得ること、見回り体制の構築など。
猟友会については、市の職員と一緒に、協議会に参加している地元猟友会の要望や意見を聞きながら協力を求めました。

協定締結や協議会運営で工夫した点
見回りについて、ニホンジカ捕獲応援隊育成講習会(遠野地方有害鳥獣駆除協議会:主催)に参加しました。

③ 協定・協議会関係図

【役割分担】

遠野支署は、市を経由し猟友会へわなを貸与します。

猟友会は捕獲実績を、市を経由して遠野支署へ報告します。

毎年開催される有害鳥獣被害防止対策協議会において情報を共有しています。

【貸出わなの種類、貸出個数】

令和5年度

遠野市：くくりわな 120基
：囲いワナ 2基
花巻市：くくりわな 52基

森林管理署のメリット

- ・捕獲頭数の増加
- ・森林被害の抑制
- ・捕獲労力の軽減

市町村

市のメリット

- ・わな購入経費不要
- ・安全な捕獲
- ・わな設置に係る土地所有者の承諾不要

猟友会等

猟友会等のメリット

- ・報奨金
- ・わな購入経費不要

- ・わなの共同利用
(署からのわな貸出)
- ・被害状況等の情報共有

★協定締結まで、協議会運営のボトルネック(課題)と改善策

ボトルネック

- ・捕獲効率が低い
- ・見回り体制の構築

改善策

- ・国有林で実績があるくくりわなを貸出
- ・今後、市の講習会により補助者を育成
- ・設置わな数の拡大

協定相手方、協議会参画者からの声

- ・地域の農林業被害の軽減につながりました。
- ・地域住民のシカ捕獲に対する意識が高まりました。

前年度の実績(森林被害対策、捕獲頭数)をさらに伸ばすために予定していること

- ・貸出わなについて、協定相手方と調整し、ワナの貸出を増やす。

6. その他(協定・協議会)

① 基本情報

管内市町村数	2
協定締結数	5
協定相手方	

- ①岩手県(環境生活部長) ②岩手県(環境生活部長)
③遠野市、遠野猟友会 ④花巻市
⑤遠野市

協議会参画数 3

協議会相手方

岩手県、関係市町村、環境省、学識県意見者、猟友会、山岳関係団体など

② 協定・協議会裏話

協定締結、協議会発足等にいたるキッカケ
深刻化するニホンジカによる農林業被害をなくすため、行政機関だけでなく猟友会や市民と一体となり取り組んでいくため発足しました。

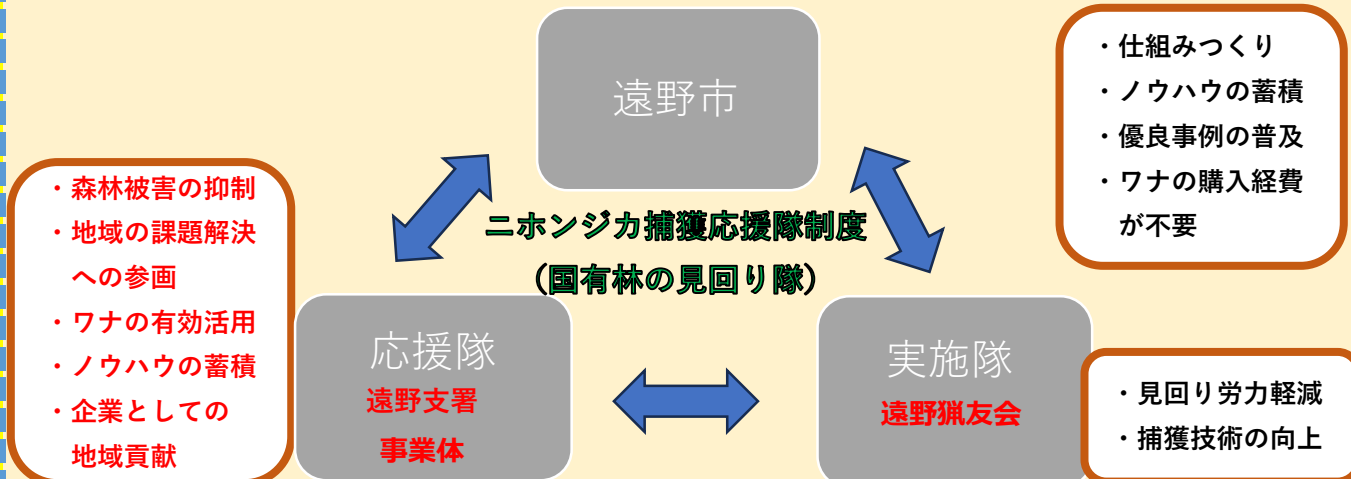
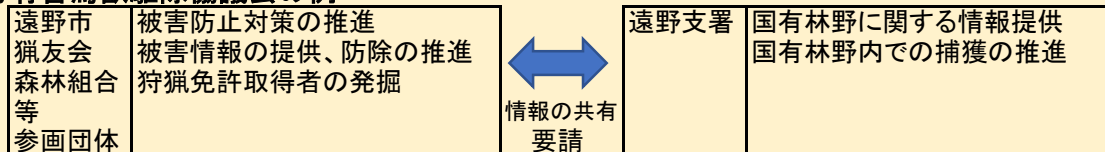
協定締結まで、協議会の運営で苦労した点
協議会での捕獲実施体制の構築。

協定締結や協議会運営で工夫した点

県・遠野市・支署の情報を共有し、一緒に活動していくことで捕獲実施体制がスムーズに機能するようになりました。

③ 協定・協議会関係図

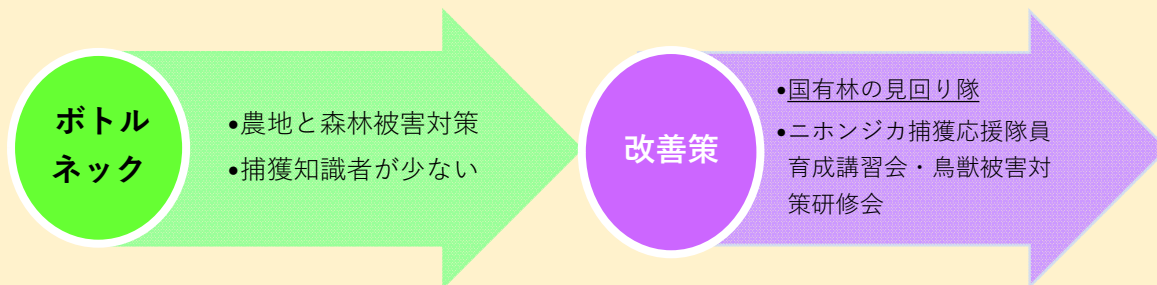
遠野地方有害鳥獣駆除協議会の例



国有林の見回り隊により期待できる効果

地域ぐるみの捕獲推進

★ 協定締結や協議会運営のボトルネック(課題)と改善策



協定相手方、協議会参画者からの声

- ・地域の農林業被害の軽減につながりました。
- ・地域の関係者が連携して効果的な農林業被害対策に取り組む体制が構築できました。
- ・林道除雪により、遠野市全体が条件のよい猟場として評価されました。

前年度の実績(森林被害対策、捕獲頭数)をさらに伸ばすために予定していること

- ・安全で錯誤捕獲の少ないくくりわなの普及を進めます。
- ・ニホンジカ捕獲応援隊制度を活用した「国有林の見回り隊」を実施します。
- ・効果的な除雪路線を検討し、除雪日数の増加(=除雪距離の増加)を検討します。
- ・遠野市主催のニホンジカ捕獲応援隊員育成講習会への遠野支署職員の受講者数拡大を進めます。